



～1月30日(火)高知新聞から～



船上で定置網漁の仕組みについて話を聞く児童（室戸市沖）

地元で盛んな定置網
佐喜浜小児童が学ぶ
室戸市

【室戸】室戸市佐喜浜町の佐喜浜小学校の1、2年生5人が29日、同市沖に船で出て、地元で盛んな定置網漁の仕組みを学んだ。

地元の水産業について学ぶ生活科の授業で、児童は佐喜浜町の漁師、松尾拓哉さん(33)の船に乗り、佐喜浜大敷組合の定置網が仕掛けられた約1・5キロ沖合まで移動した。

波で船は上下に大きく揺れたが、ライフジャケットを着用した児童から「ジェットコースターみたい！」と歓声が上がった。定置網のポイントでは、松尾さんが見本を手に漁の仕組みを解説。児童は興味深そうに話を聞いた。

イルカやクジラなど海の生き物を見ることはできなかったが、「沖に出るだけこんな揺れるとは思わなかった」「漁師さんはすごいな」と思い思いに体感した様子。2年の前田光璃君(8)は「風が気持ちよくて楽しかった。また乗ってみたい」とうれしそうに話していた。（板垣篤志）

海の学習

1月29日（月）

松尾拓哉船長の遊漁船「海来」乗船体験

この日、佐喜浜の宝、魚たちが群れる銀色の恵みの海について、2年生が学習しました。

今年も、松尾拓哉さんのご厚意により「海来」に乗船させてもらって、この魚たちを捕っている大敷あみのある漁場の見学に行きました。子どもたちは、救命具をつける時から大はしゃぎでした。

ただし、この日は少し波が立っていて、穏やかに気持ちよく船旅を満喫、というわけにはいかなかったようです。また期待のイルカやクジラとの遭遇もできませんでした。

しかし、上記の高知新聞記事にも書かれてあるように、乗船後の子どもたちからは「気持ちよかった」「また乗ってみたい」という声が聞かれました。

佐喜浜の海は、私たち佐喜浜人の宝です。生きる糧です。子どもたちにも、それを体で感じてもらえる1日になったと思います。

